

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月
発行日：毎月15日・月末
PDFによる発行

オンライン会議（ビデオ/Web/音声）システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 25 No.22 2023年11月30日

製品・サービス動向-国内

■パナソニックコネクト：シーリングアレイマイクロホン、ワイヤレスアンテナユニットを発売

(10月31日)

パナソニックコネクト株式会社 (<https://connect.panasonic.com/jp-ja/>) (東京都中央区) は、シーリングアレイマイクロホン「WX-AM800」とワイヤレスアンテナユニット「WX-AU202」を2023年度第4四半期に発売する。価格はオープン価格となっている。



シーリングアレイマイクロホン（パナソニックコネクト）

本製品であるシーリングアレイマイクロホンは、天井から部屋内の音声を拾うことができ、複数人の同時発話にも対応可能となっている。

ビームフォーミング技術で狙った場所や話者の声を的確に收音したり、エコーを低減する機能でシーリングマイクとワイヤレスマイクの併用が可能になっている。

シーリングマイクの收音範囲は1台で9m×9mをカバーでき、同一部屋内に最大4台まで設置できるようになっている。また、收音エリアの設定は、4種類ありユーザーの使用環境や運用にあわせてカスタマイ

ズし設定できる。

シーリングマイクにワイヤレスアンテナユニットを接続することで、1.9 GHz帯ワイヤレスマイク2本を、シーリングマイクと併用して使用することが可能となっている。

シーリングマイクはパナソニック製のリモートカメラとの連携が可能で、映像と音声を連動させ臨場感のある会議や授業を行うことができる。現在発売中のすべてのリモートカメラで対応可能だが、シーリングマイク1台に対し、連携可能なりモートカメラは1台となる。

設置について。本体は40cm×40cmのコンパクトサイズでありVESAマウント金具取付の4種類の設置方法でさまざまな環境への設置が可能となっている。



MiCCでの一元管理イメージ
(パナソニックコネクト)



本体はコンパクトで4種類の設置方法
(パナソニックコネクト)

「 Microphone System Configuration Center

「MicCC）」で別々の部屋にある複数のシステムを一
元管理することができる。また、MicCCはシーリング
マイクシステムだけでなくパナソニック製の 1.9 GHz
帯デジタルワイヤレスマイクシステムの各種設定や状
態取得が

でき、ワイヤレスマイクも同じソフトウェアで管理
することができる。

企業では日常的にハイブリット会議が実施されてお
り、今後も継続していくと予想され、ハイブリット環
境の構築が求められている。また、学校においても企
業と同様にハイブリット授業を継続して実施していく
方向であると予想されている。

ハイブリット会議や授業が一般的になっていく一方
で、オンラインならではのトラブルや課題も明確にな
ってきている。同社の調査によると、音声トラブル
で会議や授業が遅延した経験があることがわかったと
いう。具体的なトラブルとしては、「相手の声が聞こ
えない」「ハウリングやエコーがおきる」「複数名が
同時に話すと聞こえづらい」などの課題を解決してい
くことが求められているようだ。

パナソニックはこうしたハイブリット会議や授業で
の音の課題を解決するために、天井に設置して使用す
るタイプのマイクロホン、シーリングアレイマイクロ
ホンとワイヤレスアンテナユニットを発売する。

これまで約 80 年間培ってきた音響技術とノウハウ
を活かした本製品で、重要な場面でのコミュニケーション
の質の向上に貢献していくとしている。

■ZVC Japan : Zoom AI Companion、100 万 件のミーティング要約生成を達成、対応言 語の追加と既存機能の拡充も発表

(PR TIMES : 10 月 31 日)

Zoom Video Communications 社
(<https://zoom.us/ja>) (米国・カリフォルニア州)
は、同社のジェネレーティブ AI アシスタントである

「Zoom AI Companion」が提供開始から 2 ヶ月経たず
に、125,000 以上のアカウントで利用され、100 万件
以上のミーティング要約を生成するというマイルス
トーンに到達したことを発表した。また、AI
Companion の新機能として、対応言語の追加と既存
機能の拡充も発表した。

Zoom AI Companion は、対象の有料ユーザ Zoom ア
カウントで追加料金なしで利用できる。今後も同社は
より多くのお客様が Zoom の AI イノベーションを最
大限に活用できるよう、Zoom のスピードで新しい AI
を導入し続けるという。また、同社独自のフェデレー
ティッドアプローチ(federated approach)によりさま
ざまなモデルをダイナミックに活用することができ、
AI の経費を削減し、ジェネレーティブ AI への幅広い
アクセスを提供するのに役立つとしている。加えて、
お客様が組織の AI Companion 機能に Zoom の大規模
言語モデルのみを使用するよう指定できる、オプショ
ンコントロールを導入する予定となっている。

本日(10月31日発表時点)より、以下の新機能に
対応する。(1) AI Companion のユーザはミーティ
ング内質問機能を7つの言語(スペイン語、日本語、
フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、中国語、イタ
リア語)で使用できるようになった(プレビュー版)。

(2) ユーザからのフィードバックに基づきミー
ティング要約機能では、メールで配信されるサマリー
の冒頭にミーティングの概要が表示されるようになり、
ユーザは完全版に加えて、ミーティング要約の簡潔版
も利用できるようになった。11 月には、継続的な
ミーティングチャットで配信されるサマリーでも、
ミーティング要約概要が利用できるようになる予定。

Zoom 社では、今後も AI Companion の改良を続け、
11 月後半には以下の新機能の提供を予定している。

(1) AI Companion のミーティング要約とミーティ
ング内質問機能の両方のプレビュー版で合計 32 の新
しい言語をサポートする。(2) AI Companion は、

スマートレコーディングのスピーチ分析を皮切りに、ミーティングコーチ機能を提供する。スピーチ分析には、ミーティングホストの発話とリスニングの比率や、話すスピード、発言中のつなぎ言葉が含まれているため、ホストは Zoom Meetings 中にどのように会議参加者とコミュニケーションを取るべきか、貴重な洞察を得ることができる。(3) AI Companion は、Zoom Events で利用できるようになり、ロビーチャットでのチャット作成機能、登録、マーケティング、チケット販売に関する連絡用のメール作成をサポートする。

AI Companion に対する評価としては、「過去 10 年間で初めての技術革新であり、大幅な時間節約と効率化をもたらす」「チームの時間が大幅に節約」「情報共有が効率化され、生産性が向上する」「私たちがより良いコミュニケーターになるのに役立っている」といった声がユーザから寄せられている。

導入利用動向-国内

■ ZVC Japan：シャトレゼ、「Zoom Phone」を導入しフリーアドレス化に対応

(PR TIMES:11月24日)

ZVC Japan株式会社 (<https://zoom.us/ja>) (東京都渋谷区) は、株式会社シャトレゼ (<https://www.chateraise.co.jp/>) (山梨県甲府市) が、「Zoom Phone」「Zoom Meetings」「Zoom Rooms」を導入したと発表。フリーアドレスに対応した新電話環境の構築および業務効率向上に活用している。

シャトレゼは、1954年創業の生菓子の総合メーカーで、菓子専門店「シャトレゼ」を国内800店舗(YATSUDOKI含む)、海外9か国170店舗で展開している。創業以来、「おいしいものを、お値打ち価格で」をモットーに、いち早く菓子製造のオートメーション化を図り、農場、工場、店舗を一体とした「ファームファクトリー」という独自のビジネスモデ

ルを確立している。2023年5月には、本社・中道工場内に新設した事務棟の稼働を開始し、それに伴う大規模な業務改善プロジェクトを推進中という。

今回の新事務棟建設にあたり、シャトレゼでは長年活用してきたオンプレミス型PBXの老朽化に伴う更新や、新事務所のフリーアドレス化への対応が急務であった。そこで、導入コストや導入にかかわる期間と手間を極力抑えつつ、今後のビジネスの拡張に合わせて柔軟に対応できる電話環境を求めているところ、IT支援パートナーである伊藤忠テクノソリューションズ(CTC)からすすめられたのがクラウド型PBX。複数のクラウド型PBXに対応したサービスと各種機能の充実を比較検証した結果、シャトレゼが目指している業務改革と一致していたZoom Phoneが選ばれた。

Zoom Phoneの導入にあたっては、Zoomソリューションとの親和性、コストパフォーマンスの高さ、さまざまなネットワーク環境でも通話が途切れにくい電話としてのサービス品質が決め手となったという。すでに「Zoom One」を導入し遠隔会議に活用していたため、Zoom Phoneの導入により遠隔会議と音声通話を統合してワンアプリとして使用できるようになった。加えて、他サービスと比較しても無償アカウントが利用できるため、大幅なコスト削減に貢献できると判断された。

導入までは、電話回線の敷設や開設後の管理などに手間をかけることなく、Zoom Phone採用決定から2か月で電話開設を実現し、2023年5月から本社・中道工場と土浦工場においてZoom Phoneの運用を開始した。併せて、新事務棟に設置した会議室などにもビデオ会議ソリューション「Zoom Rooms」を設置し、遠隔会議における音声・映像品質の向上、会議開始の手間を削減することで生産性の向上につながっているという。

Zoom Phoneの導入によって、電話を受けた人や取り次いだ人が簡単に可視化できるようになり、業務の

引継ぎなどが迅速になったほか、電話応答をコンプライアンス視点で管理できるようになり、業務の効率化と品質の向上を実現したという。さらに、コスト面でも大幅な削減が見込まれ、他のクラウド型P B Xを活用するサービスと比較しても、全体のランニングコストが年間で約5分の1にまで削減できる可能性にシャトレゼでは期待を寄せている。

今後、本社・中道工場と土浦工場で培った Zoom Phone の導入・運用ノウハウをパッケージ化し、そのモデルケースを他の工場にも展開していく計画という。新設予定の工場にはパッケージを最初から適用することで、同社の目標でもあるスマート工場の実現を目指している。

*グローバル展開する人気の菓子メーカーが Zoom Phone を採用

https://explore.zoom.us/ja/customer_stories/chateraise/

■ ZVC Japan：長野市民病院、Zoom ソリューションを採用し医療品質の向上と業務負担の軽減を実現

(PR TIMES:11月17日)

ZVC Japan 株式会社 (<https://zoom.us/ja>) (東京都渋谷区) は、地方独立行政法人長野市民病院 (長野県長野市) が、「Zoom Meeting」「Zoom Team Chat」「Zoom Rooms」などの Zoom ソリューションを導入したと発表。医療品質の向上や業務負担軽減のための環境づくりに活用している。

長野市民病院は、高度急性期病院としてがん診療、救急医療、脳・心臓・血管診療の3領域を診療の柱に据えており、36の診療科で400の病床数を構えている。ダ・ビンチ手術と呼ばれるロボット支援手術を全国に先駆けて展開するなど、高度な医療技術を用いて地域医療を下支えしている。また以前より、遠隔診断ツールの導入や遠隔地とのコミュニケーション環境の

整備など、デジタル化に積極的に取り組んでいる。

近年、コロナ禍の影響もありチャットツールを用いた院内情報の共有ニーズが高まっていたものの、コミュニケーションツールにおけるガバナンス管理に課題を抱えており、組織アカウントで管理できるセキュアな環境が求められていた。また、2019年に長野県を襲った台風による甚大な被害の教訓から、緊急事態時に公衆回線網が不通になっても連絡できる通信手段環境の整備が急務だった。そこで注目したのが、知名度が高く、多くの人が利用している Zoom のソリューションだった。

長野市民病院では、職員全体でチャットができるソリューションを模索する中で、Zoom のソリューションであれば、医療情報システムを安全に管理するためのガイドラインを意識しつつ、強力的に暗号化された通信と、エンドツーエンドの暗号化といったセキュアな環境を実現できると判断し、院内のコミュニケーション基盤として Zoom ソリューションの採用に至る。

Zoom ソリューションを導入することによって、ガバナンスが強化されたことに加え、Zoom Rooms と電子カルテシステムを接続することで、離れた場所にいる専門医と救急センターの救命医が電子カルテの情報を画面共有しながらやりとりできるようになった。また、院外での電子カルテの閲覧が可能になったことにより、医師が病院にいかずとも迅速に判断することが可能になり、医師の負担軽減および働き方改革に貢献しているという。

他にも、コロナ禍における病棟内への立ち入り制限のために介護保険の申請に関する認定作業が停滞していたが、Zoom ソリューションを利用して面談を行うことで、一気に解消されたり、Zoom Meetings を利用して多くの医師が在籍している大学病院のカンファレンスに参加することで、より多くの意見をもらうことができたりと、さまざまな場面で Zoom のソリューションが医療品質の向上に貢献しているという。

今後長野市民病院では、予約受付センターなどに設置するコンタクトセンター機能としての「Zoom Contact Center」の活用や現在使用している PHS や ナースコールの代わりに Zoom Phone を活用することなどを検討している。これからさらに Zoom ソリューション小塚ゴシック Pr6N M
ンをコミュニケーション基盤として浸透させていく予定で、介護施設や地域医療との連携においても情報密度を高めていく基盤として Zoom ソリューションに期待を寄せている。

決算発表-海外

■Zoom 社：2024 年度第三四半期の決算発表、売上高が計画を上回る、総収益は 11 億 3,670 万ドルで前年比 3.2%増、AI 関連の新サービスやエンタープライズ顧客における新規と既存両方での売上増が貢献

(11 月 20 日)

Zoom Video Communications 社 (<https://zoom.us/ja>) (米国・カリフォルニア州) は、2024 年度第三四半期 (終了日：2023 年 10 月 31 日) の決算を発表した。

同社によると、第三四半期の総収益は、11 億 3,670 万ドルで前年比 3.2%増 (為替の影響を除いた場合は 3.5%) を記録した。GAAP ベースの営業利益は 1 億 6,940 万ドル、また純利益は 1 億 4,120 万ドルであった。

Zoom のオールインワンインテリジェントコラボレーションプラットフォームを強化した結果、売上高が計画を上回ったとともに、多くの財務指標において好調な業績を達成した。加えて、サービス利用のリテンション率 (retention、サービス利用定着率) の向上や新しい AI 機能の利用拡大によって Zoom プラットフォームの価値がさらに高まったとしている。

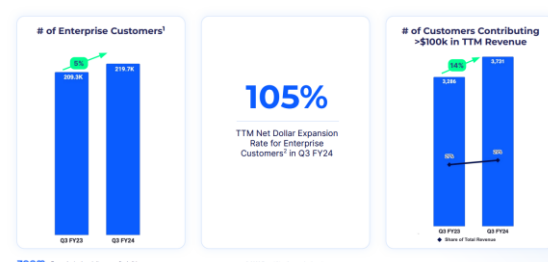
「Zoom AI Companion」などの新サービスによりまた総収益の中に占めるエンタープライズ収益は 6 億 6,060 万ドルで前年比 7.5%の増加となった。それを支えるエンタープライズ顧客数は 219,700 社で前年同期比 5%増加した。また、既存顧客からの売上拡大 (net dollar expansion rate) においては 105%を達成している。さらに、10 万ドル以上サービスへ支払った顧客は 3,731 社に及ぶ。前年同期比で 13.5%増加したことになる。他方、解約率 (churn) は 3%ではあったが、少なくとも連続で 16 か月以上サービス利用した顧客からのオンライン MRR (Monthly Recurring Revenue) は 73.2%で昨年と比べ 250 ベースポイント増加したことになる。

Continued top-line growth with positive trends in Enterprise and Online



総収益とエンタープライズ収益の増加、解約率の減少 (Zoom 社決算資料より)

Growth in new and existing Enterprise customers



エンタープライズ顧客及び大口利用顧客からの売上増加 (Zoom 社決算資料より)

2023 年 11 月 1 日から開始した第四四半期の総収益は、11 億 2,500 万ドルから 11 億 3,000 万ドル、また通期では、45 億 4,200 万ドルから 45 億 4,700 万ドルと予想されている。

*Zoom 社決算発表資料

<https://investors.zoom.us/financial-information/quarterly-results>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報（12月）

「バーチャル株主総会・決算説明会 配信会場シミュレーション」「AmazonIVS・Agora・Tencent Cloud で始めるライブ配信アプリ 開発勉強会」「最新！動画処理の技術講座」など

会場：オンライン／オンデマンド／東京／大阪

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー（12月）

会場：オンデマンド

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。

この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNAレポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）

は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2023年11月30日号

ホームページ：<https://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp